



# 自治労の保育集会はすごい!

8月1日から3日まで、山形県上市市で開かれた第29回全国保育集会所が開かれ全国から1600人が参加した。

この集会は、昨年北海道で開かれている大きな集會。来年は、鹿児島県で開催する予定。

保育現場に規制改革の動きが強まる中、全国の保育関係職員の組合員が集まり、保育の社会的役割、子育て支援、保育指針、労働条件確保など多くの分科会や、ワークショップ



子どもたちの花笠音頭ではじまった保育集會

この原因は、指定管理者制度にあると考えられる。公募のたびに、今後とも働くことができるのかという不安の中で働かなければならない。この状況では優秀な人材の確保は困難で、市民サービスの向上につながるどころか、指定管理者制度の撤廃と労働条件の改善を訴えていき、働く人達が不安なく働くことが出来る職場を作っていくことがとても重要なことであると感じた。

## 不安なく働ける職場に

佐々木智弘さん  
(札幌市職連・北米児童会館)



全国保育集會に参加し、全国各地の児童館や学童保育で働く方々ときまざまな情報交換をさせていただいた。

お話を聞き感じたことは、どの都市も労働条件が厳しいということだった。労働条件が良くないから人員の確保が困難という悪循環になるのだと

会はずい。今回の集會参加者2人から感想をいただいた。

私は山形の米沢にある県立短大を卒業し、その後函館市の職員として保育士になった。「山形」で開催と知り、懐かしさとも働けることがあふれ自分から「行かせてください」とお願いした。卒業後16年、あの頃と変わらぬ優しさに触れることができ胸いっぱいになった。さらに会場ではまた別の感激。子どもたちの花笠音頭は本格的で、舌を巻いた。大棟耕介さんの記念講演では、自分の前のめりになりながら笑い、共感し、感動した。自分の目の前の子ども

を、わたしは前のめりにさせる魅力ある保育をしてきたらどうか。自分の保育を振り返り反省し、この全国集會でなにかをつかもうという意気込みが変わった。

分科会報告の内容もさることながら、その熱意とやる気に圧倒された。どの都市も目の前にいるような問題を抱えながらも、常に前を向き積極的に運動することで保育行政に立ち向かう姿勢こそが大事なのだと、ひしひしと伝わってきた。

この3日間は学ぶことがあまりに多く「もっと聞きたい」話ばかりだった。



林 香月さん  
(函館市職労・市立鍛冶保育園)

## 保育の意識変わった

今回は、プルサーマルの事前了解を撤回した福島県エネルギー政策検討会「中間とりまとめ」までの経過を掲載する。(次号で終了)

福島県「検討会」までに起きたこと

- 1999年9月、東海村JCO工場の臨界事故
- 12月、福島原発ヘルゴニュークリア社製MOX燃料搬入
- 9月、福井原発に装荷予定のMOX燃料データねつ造発覚
- 12月、関西電力装荷を断念
- 翌年1月、東京電力、プルサーマル計画の福島

はなかった。その私がこの保育集會で、自分の保育を改めて考え直すとともに、次世代の保育に対する意識も変わったように思う。保育行政に流されるのではなく、保育士自身が主導になり子どもと保護者支援のために築き上げる保育こそが市民に求められる公立保育園の役割ではないだろうか。この保育集會に参加させていただいたことを心から感謝し、保育への意識改革も埋もれさせず、常に前向きに行動していきたいと思う。

## めざせ核廃絶!!

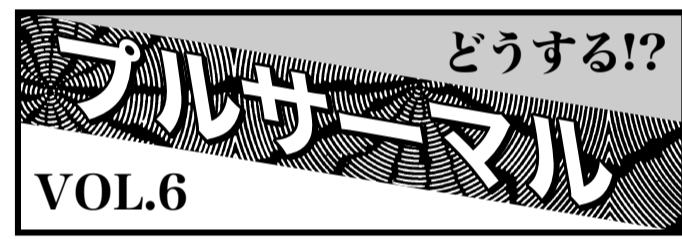


長崎大会で、広島から長崎に、ピースフラッグが手渡された=8月7日

## 63周年原水禁世界大会

8月4日から広島で、7日から長崎で、被爆63周年原水禁禁止世界大会が開かれ、北海道から全体で112人が参加した(長崎は24人)。三団体共同開催核兵器廃絶2008平和広島大会には約6500人が参加した。

高木連合会長は、「唯一の被爆国の労働組合として国際的責任を全体で確認しよう」と述べ、「2010年核拡散防止条約(NPT)の再検討会議



今回、プルサーマルの事前了解を撤回した福島県エネルギー政策検討会「中間とりまとめ」までの経過を掲載する。(次号で終了)

福島県「検討会」までに起きたこと

- 1999年9月、東海村JCO工場の臨界事故
- 12月、福島原発ヘルゴニュークリア社製MOX燃料搬入
- 9月、福井原発に装荷予定のMOX燃料データねつ造発覚
- 12月、関西電力装荷を断念
- 翌年1月、東京電力、プルサーマル計画の福島

力に福島第一原発でのMOX燃料装荷を断念

- 4月、福島県知事「エネルギー政策検討会」立ち上げ
- 2月、データ毎に推進・慎重双方の専門家を招き行われた
- 2002年8月以降、東京電力のトランプル隠し、データ改ざんが発覚
- 12月に、福島県は「中間とりまとめ」を行った。

福島県は、この「中間とりまとめ」の最後に、国に対して3項目の要旨を提言として発しています。次号では、その要旨を掲載します。

## 忙中余話

◆道本部で組織拡大の任務に就いて今年で9年目になる。この任務は書記局に座っていても成果は得られない。今年の手帳に「富山書記長(当時)に子ども達が話しかけ、すっかり邪魔をしてしまったので、お盆に4カ月ぶりの散髪へ行ってきた。家族には誰にも気付かれぬように、未組織労働者の組織化を通じて社会的多数派づくりに力を注ぎたい。」(父早帰りの松岡)

## 募集中!道本部=機関紙写真・まんがコンクール

写真・まんがは、組合員、家族、退職者のみなさん。機関紙は、各単組・総支部からのご応募お待ちしております。

★9月10日締め切り  
くわしくは、所属組合または道本部(011-747-3211)まで。

★ホームページ(単組・組合員専用)の8月8日をご覧ください。



きんちゃんの国会だより  
金田誠一  
46

スコールのような集中豪雨、竜巻や突風、季節はずれの台風など、温暖化による気候変動と思われる状況が多発しています。サミット開催も、ルギーを飛躍的に普及促進させました。日本での導入も望まれますが、福田首相は抜本的な対策までは踏み込みませんでした。電気料金に跳ね返るこの制度は、家計の費用負担増もCO<sub>2</sub>削減費用で相殺できる水準であり、石油高騰の現状からも脱化石燃料化を社会全体で進めるメリットがあります。

自然エネルギーを普及促進しよう